

平成21年度

学校評価報告書

学校法人東海医療学園

東海医療学園専門学校

1. 学習者中心の学びの場の創造

重点目標	具体的な方策	実施状況	課題と改善の方向
<p>教育力向上</p>	<p>教育力向上のための研修、授業研究等の実施。東洋療法学校協会等が開催する研修会、教育関連学会、医学、スポーツ等関連学会への積極的な参加により、教育力・指導力を高める。</p> <p>授業の改善、向上をはかるために学生による授業評価、ミニツツペーパーなどによる自己点検評価を実施し、授業の改善向上を積極的に努める。</p>	<p>4 月、講師会議並びに教員研修会を実施。校長による「2009 年度重点目標」、「本校教育の在るべき姿」等についての講演、本校講師三角真之介先生の講演「学生に対する支援」について聴く。</p> <p>6 月、第 58 回全日本鍼灸学会が開催され、本校から校長はじめ専任教員、講師が参加した。教員の発表は以下のとおり。「燃焼温度評価による灸実技練習法」(村松夏子)、「OSCE における症例形式の導入について」(臼井明宏)</p> <p>8 月、東洋療法学校協会第 33 回教員研修会が開催され、参加した。</p> <p>11 月、日本鍼灸手技療法教育研究会第 6 回学術大会が開催され、参加した。</p> <p>その他、個々の教員が、医学・教育・スポーツ関連の学会・研修会に自主的に参加し、研鑽を積んだ。</p> <p>学生による授業評価等自己点検を実施、実施率は 100%であった。</p>	<p>授業の学生評価等自己点検の結果を踏まえて、また、互見授業などを実施して、積極的な授業の改善に取り組むよう努める。</p> <p>学生が前向きに学習に取り組めるような指導力向上を図るための FD を実施する。</p> <p>「教育マニュアル」の内容を見直しつつ、各教員が内容を把握し参考として活用するよう徹底を図る。</p> <p>実技実習の指導内容について再検討が必要であり、これに伴いカリキュラムの見直しが求められる。</p>
<p>学校行事・課外活動等の充実</p>	<p>学生の学習意欲を高め、また、学生相互の親睦を図るため、校外実習や学園祭などの学校行事を開催する。</p> <p>東洋療法学校協会等が開催</p>	<p>5 月、校外実習として、1 年生は江ノ島杉山検校墓参、2 年生は鶴見大学解剖見学実習、3 年生はセイリン工場の見学を行った。</p> <p>7 月、本校校友会総会並びに研修会が開催され、学生が参加して OB と交流した。講師を務めた OB の熟練の技を見せることができた。</p> <p>10 月、東洋療法学校協会第 31 回学術大会が開催</p>	<p>行事や課外活動は、学生相互や教員との親睦、レクリエーション、一般市民との交流や奉仕の精神の発揚など、コミュニケーション、人間関係づくりに関わる重要な教育的意義をもつ。今後も、積極的な参加を指導していくこととする。</p> <p>学生が目指す施術者、トレーナー、美</p>

<p>基本的臨床能力の向上</p> <p>国家試験合格率の向上</p>	<p>する学会等に参加する。</p> <p>「臨床実習の手引き」の作成。臨床実習の到達目標、評価の方法等について明確にする。</p> <p>OSCE（客観的臨床能力試験）の実施</p> <p>学力テストを実施し、学生の学習状況を把握する。</p> <p>「国家試験問題集」を配布して問題の傾向を把握させ、自己学習を推進する。</p> <p>模擬試験を実施するとともに、その結果を踏まえて補習授業を実施する。</p>	<p>された。本校からも学生・教員が参加し、「下腿三頭筋に対する鍼刺激が足関節に及ぼす影響」と題して発表する予定であったが、台風の影響で参加を断念した。</p> <p>10月、学園祭を開催。チャリティマッサージ、模擬店、バザー等を催し、市民との交流を深めた。</p> <p>球技大会を開催し、フットサル、バスケットボール、バレーボール、バドミントン等のスポーツを楽しみながら学生相互、教員との親睦を深めた。</p> <p>「臨床実習ハンドブック」を作成した。</p> <p>9月、3年生対象にOSCE（客観的臨床能力試験）を実施した。</p> <p>（社）東洋療法学校協会が実施する「はりきゅう実技評価試験」を実施した。</p> <p>本年度の本校の国家試験合格率（既卒除く）は、あん摩マッサージ指圧師試験は、89.7%、はり師試験は、81.1%、きゅう師試験 75.5%という厳しい結果に終わった。</p>	<p>容セラピストなどのロールモデルとして、OBは身近な存在である。従って、OBと接する機会の意義は大きい。校友会との連携により、OBとのコミュニケーションを図る機会を増やすよう努める。</p> <p>臨床実習の主たる目的は、一般患者に接することで、プロフェッショナリズムを醸成することにある。現状では、患者様のプライバシーの問題等があり、十分な機会を設けるに至っていない。地域への貢献を踏まえ、患者様とのコミュニケーションを図る機会を増やすよう努める。</p> <p>一人ひとりの学生と教員とがコミュニケーションを図りつつ、現状認識とモチベーション向上に努めるよう指導していく。</p>
-------------------------------------	---	--	--

2 . 学生支援の充実

重点目標	具体的な方策	実 施 状 況	課題と改善の方向
<p>キャリア支援の充実</p>	<p>進路相談を随時実施し、学生のニーズに応じた進路アドバイスを行う。また、学校主催の相談会を実施、求人先と学生とのコミュニケーションの場を設ける。</p>	<p>11 月、本校にて、第 3 回就職ガイダンスを実施、医療機関等 47 事業所に参加して頂いた。 就職ガイダンスに参加した学生の中には履歴書を持参する者もあり、この企画が進路決定のための必要なイベントになっていると思われる。また、1,2 年生の参加も昨年より多く、早い時期から進路に対する関心を持たせる上でも、有意義である。本ガイダンスで進路を決めた者が増えつつある。 8 月、(財)専修学校教育振興会主催の C S M (キャリア・サポート・マインド) 講座に職員を派遣。身につけたスキルを活かしつつ、学生の進路相談を実施した。</p>	<p>求人件数は 2008 年度の 121 件に対し、2009 年度は 143 件と 18%増加した。求人数も 38%増であり、求人倍率も 2008 年の 5.1 倍から 8.1 倍へと増加した。 今後も求めに応じられるよう努力する。 キャリア教育をさらに充実していくことが課題である。カリキュラムへの導入などを検討していく。 学生からの信頼度を高めるべく、スタッフのさらなる資質向上に取り組んでいく。</p>
<p>中途退学者ゼロ対策</p>	<p>学習面で悩みのある学生については、早期に面談を行い、学習方法の改善等適切な助言指導により、成績の向上を図る。 身体的、心理的、社会的な問題を抱えた学生の相談に対応するため学生相談室の充実を図る。 欠席が続く学生には早めの声かけをするなどして問題の発見に努め、教員とカウンセラーとが協力をして解決にあ</p>	<p>5 月～6 月、クラス担任並びに校長による個人面談を行い、学生一人ひとりの学習面、生活面、健康面などの状況把握に努めた。 学習面での悩みを抱えている学生には、学習環境の改善、学習方法の指導、モチベーションの向上に努めた。</p>	<p>21 年度は、鍼灸マッサージ科で 4 名、鍼灸科で 1 名、計 5 名の中途退学があった。主な理由として、「進路変更」、「就学困難」であった。 学生と教員とのコミュニケーションを密にし、問題の早期発見・解決に努め、組織として取り組む。 医学的、心理的な問題が考えられる場合は、すみやかに学校医、カウンセラーと連携しつつ、適切に対処する。</p>

<p>経済的支援の充実</p>	<p>たる。</p> <p>地方自治体や銀行などの奨学金、教育ローンなどを調査し紹介する。金融機関と提携する教育ローン制度を HP 等で紹介する。</p> <p>日本学生支援機構奨学金や「国の教育ローン」等の紹介を行う。</p> <p>校友会奨学金制度を設ける。</p>	<p>21 年度日本学生支援機構奨学金の枠、「第一種 2 名」「第二種 7 名」の計 9 名に対し、希望者 9 名で、結果として全員が利用することができた。</p> <p>校友会奨学金制度が設けられ、スタートした。</p>	<p>近年、奨学金希望をする学生は増加傾向にあるが、採用枠の関係から希望者全員に貸与することができないことがある。可能な限り、他の制度、教育ローンなどを受けられるよう配慮する必要がある。</p>
<p>健康管理</p>	<p>毎学年健康診断を実施し、学生の健康状態を把握するよう努める。</p> <p>健康診断の結果だけでなく、担任等が常に気を配るよう心掛ける。</p> <p>身体のみならず、学生の心の状態を把握しケアが行えるよう努める。</p>	<p>5 月、健康診断を実施。さらに、定期的に担任面談等を行い、健康状態の把握を行い、状況によっては学校医の医療機関等を紹介している。</p> <p>心のケアについては、毎週、臨床心理士によるカウンセリングの機会を設けている。</p> <p>その他、セクハラ、アカハラの問題についても相談窓口を設けているが、相談者は無かった。</p>	<p>社会環境の変化に伴い、学生相談の内容も多様化してきている。教職員で対応することが困難なケースもあり、医療機関、臨床心理士のような専門職等との連携を図りつつ対応していく必要がある。</p>

3 . 地域への貢献

重点目標	具体的な方策	実施状況	課題と改善の方向
<p>附属臨床センターの充実</p>	<p>地域に愛される施設として存在し、地域住民の保健衛生に貢献する。</p>	<p>当センターに来院される患者様を対象に「満足度アンケート」を実施、79 名の患者様から回答を得た。その結果、「サービスの内容」「施術時間」「予約状</p>	<p>アンケートの結果を踏まえて、患者様のニーズの把握、更なるサービスの質向上に努める。</p>

<p>アスレティックトレーナー(AT)専攻コースの充実</p> <p>卒後教育への取り組み</p>	<p>地域の人達に当校 AT 専攻コースの存在を知ってもらうことに努めるとともに、地域スポーツや健康教育の分野における貢献に努める。</p> <p>日本体育協会公認 AT の資格合格率 100%を目指す。</p> <p>臨床センターにおいて、卒前教育で身につけた臨床能力をさらに向上させるための、卒後臨床教育を実施する。</p>	<p>況」「スタッフの対応」等で、概ね良好なご回答を頂いた。しかし、中には「隣のブースの声が聞こえる」「時々希望する時間に予約がとれない」等のネガティブな意見もあった。</p> <p>「臨床センター便り」No.16～25 を発行、患者様とのコミュニケーションに努めた。</p> <p>地域企業からの要請により、社員の疲労回復、作業能率の向上等産業衛生を目的としたマッサージを行うため施術者を派遣した。</p> <p>AT コースを開設して3年が経過、教育システムが構築され、検定試験対策も整いつつある。</p> <p>21 年度検定試験では、4 名の筆記試験合格者の中から、2 名の実地試験合格者を出すことができた。</p> <p>地域の高校・中学等の教員研修、県体育協会の要請などによる講師派遣を行った。</p> <p>国民体育大会、高校の部活動、スポーツクラブ等へのトレーナー派遣、中学・高校のサッカー大会等におけるトレーナーブース設置など、学生の現場実習を兼ねた地域貢献ができた。</p> <p>「臨床基礎コース」「オイルマッサージコース」「積聚治療コース」を設け、希望者を募り研修を実施した。</p>	<p>治療スタッフの能力の向上に努める。</p> <p>「センター便り」は患者様には概ね好評であるが、当センターを知って頂くためより多くの方々に見て頂けるよう検討し、またその他の PR の方法も考え来院者の増加を目指し努力する。</p> <p>受療者アンケートを実施、523 名から回答を得た。約半数が「作業効率の向上」を感じ、「継続受療することで作業効率が向上」をあわせると約 80%が効果を実感しており、産業マッサージの有用性が示唆された。今後も、継続できるよう努めたい。</p> <p>教育の向上に努めるとともに、日本体育協会公認 AT 資格の合格率向上を目指し、検定試験対策の充実を図る。</p> <p>スポーツ現場での活動を継続して行い、選手・コーチとの交流の場を設け、AT 活動とその必要性を認識してもらうよう努める。</p> <p>地域住民を対象とした講座を継続し、スポーツ現場で活用できる知識・技術を得てもらえるよう努める。</p> <p>修了した研修生からは、「大変勉強になった」「受講してよかった」との満足を得ることができた。今後、さらなる充実を図るよう努力する。</p>
---	--	--	--

--	--	--	--

4 . 学生の受入れ

重点目標	具体的な方策	実 施 状 況	課題と改善の方向
<p>学生募集のための 広報活動</p>	<p>志願者の増加と広報活動について、業者主催のガイダンスにより高校生への広報活動、進路相談を行っていく。また、東洋療法についての認識を深めてもらえるような説明を行う。 高校訪問を強化する。 オープンキャンパスを充実させ、参加者を増やす。 社会人、中高年者の志願者を発掘する。</p>	<p>学校 HP や業者による WEB、受験雑誌等、オープンキャンパスや入試広告のための新聞、電車広告等への掲出等、その時期の応じた広報活動を行った。 21 年度オープンキャンパスを 4 回開催したが、参加者は前年度より 18%減少した。</p>	<p>進学ガイダンスに直結させるために、高校訪問の充実化を図っていく。特に現在在学者がいる高校を中心に行っていく。 オープンキャンパスの開催回数、内容を見直し、参加者増に努める。また、業界で働く卒業生の話しなども取り入れていく。毎年、同様の内容でなく、参加者と時代のニーズに合わせた企画を常に検討していく。 社会人志願者が増加するよう、広報を充実させていく。</p>
<p>定員充足率の向上</p>	<p>幅広い年齢層から募集できるよう、高校生推薦入試、社会人入試、学士入試、一般入試という区分で実施する。</p>	<p>18 歳人口が減少しつつある中、鍼灸マッサージ科（昼間部）については、志願倍率が出ており定員は充足している。しかし、鍼灸科（夜間部）では全ての学年で定員充足が出来ていない状態である 医療資格保有者を対象に募集し、志願者増につながった。</p>	<p>モチベーションが高く、かつ医療人として適性の高い志願者を選抜できるよう、医療資格保有者を対象とした募集活動、また、中高年者を対象とした選抜等について実施する。 美容、民間資格で営業している人たち等に対して、募集活動を強化していく。 鍼灸科ならではの特色あるカリキュ</p>

			ラムの策定が急務である。 また、鍼灸マッサージ科についても同様に、魅力あるカリキュラムに向けた見直しを行う。
--	--	--	---

5 . 円滑な学校教育の管理・運営

重点目標	具体的な方策	実施状況	課題と改善の方向
法令遵守	常に法令、学則を遵守しているか確認し、誤認識がないか等の点検を行う。	行政への定例報告等、期限を厳守して行った。 H21 年度に新規に採用した講師については、教員資格を確認の上採用した。	学校教育法、あはき師養成施設認定規則等、関係法令の確認をしつつ遵守する。
自己点検・評価	自己点検・評価については、本校の重点目標を達成できるよう具体的な方策を検討し、着実に実行して成果を挙げるよう取り組む。	自己点検・評価の結果について、「学校評価実施報告書」として纏め、ホームページ等で公表した。	学校評価の結果を教職員全員が真摯に受け止め、改善すべき点については改善できるよう努力する。 学校評価報告書を理事会・評議員会に提出し、評価を受ける。
定例会議の開催	学則に定めた学校運営会議等の定例会議を中心に、教職員のコミュニケーションを図り、学校運営の円滑化を図る。	定例会議、臨時会議等を開催し、コミュニケーションを図りながら、諸問題の解決に取り組んだ。 必要な連絡事項については、校内ネットワークによる円滑化を図った。	常勤教職員間のコミュニケーションはほぼ良好に保たれたが、非常勤講師等とのコミュニケーション不足が否めない。なるべく face to face のコミュニケーションを図りつつ、業務の円滑化を図る。
危機管理	万が一の危機・危険の発生に備え、その防止対策、発生	危機管理マニュアルの点検と、危険の発生を想定した避難訓練を実施した。	様々な危機・危険を想定し、定期的なトレーニングを実施することが望まし

<p>健全な学校経営の 継続</p>	<p>時に適切に行動できる体制を整える。</p> <p>財務の健全化を維持するため、無駄を省き、経費の節減に努める。</p> <p>教職員の健康管理に努める。</p> <p>適切な労務管理に努める。</p>	<p>防災用具（毛布・水・食料等）の備蓄・点検を行った。</p> <p>各部署において、光熱水や消耗品等の無駄を省くなど、経費節減の意識を持つことを徹底した。</p> <p>教職員がオーバーワークになりがちであるため、シフトを遵守するよう努めた。また、休日出勤については、代休をとり休息に努めた。</p> <p>教職員の定期健診を実施、疲労回復や作業能率の向上を目的に附属施術所における鍼灸マッサージ受療を奨励している。</p>	<p>い。</p> <p>東海地震を想定した詳細なマニュアルを作成する。</p> <p>環境保全と経費節減のために、資源の無駄、空調の温度設定など、節約することに継続して努める。</p> <p>教職員が、生きがいをもち、快適に仕事ができる環境づくりに今後も努めていきたい。</p>
------------------------	---	--	--